



題字「ほねほねボード」前田路岡員 作

ホネホネ団通信 23号

2014年9月14日発行

なにわホネホネ団事務局

〒546-0034

大阪市東住吉区长居公園 1-23 大阪市立自然史博物館

TEL : 06-6697-6221 FAX : 06-6697-6225

電子メール : wadat@mus-nh.city.osaka.jp

なにわホネホネ団公式 Web サイト

<http://www.geocities.jp/naniwahone/index.html>

ホネホネサミット2014開催迫る!

「ホネホネサミットは、博物館や大学などを舞台に、公の財産としてのホネの標本づくりをしている団体や個人の交流が大きな目的です。その他にも、さまざまな形でホネの標本づくりに関わっている者同士が交流できればと考えています。また、イベントとして一般の方々にも来ていただき、ホネの魅力や動物の死体を標本として残すことの意義を多くの人に知ってもらう機会にもしたいと考えています。」というのが、出展者募集に書いたホネホネサミットの開催趣旨です。



覚えている方も多いでしょうが、2009年と2011年の2回開催し、今回が3回目

の開催になります。2年に一度の開催なら、昨年開催しては？と思っただ方は鋭い（誰でも思うか）。昨年2013年はなにわホネホネ団結成10周年にもあたり、是非ホネホネサミットを開催したかったのですが、先立つものが確保できず開催を断念しました。で、ほぼ諦めていた今年、なぜか先立つものが確保できてしまい開催の運びになりました。どうやら先立つものは、私が特別展の主担当に当たって、メッチャ忙しい年に確保できる傾向があるようです。



過去のホネホネサミットは、2009年が37団体・個人、2011年は50団体・個人の



開催日：2014年10月12日(日)～13日(月・祝)

出展がありました。いずれの年も北海道から九州・沖縄まで日本各地からの出展があり、海外からのゲストによる招待講演もあり。名実ともにサミット感が満載でした。3回目も同じようなサミットにできるか不安とともに準備を始めましたが、9月5日現在47団体・個人の出展申込みがあり(まだ増えるかも?)、出展者は北海道から沖縄県まで拡がっています。韓国からのゲストによる招待講演も決まりました。過去2回と同規模のサミットにはなりそう。これからの準備でさらに楽しいサミットにしたいと思います。多数の参加をお待ちしています。



というわけで、参加したくなるように、47団体・個人のブースやポスター以外に、決まっている企画を紹介しておきます。また、講堂などでのプログラムがいっぱいになってしまいました。他のブースを見る時間がないという苦情が出展者からあがらないか心配です。ゲッチョの絵描き講座も希望者殺到であふれどもめないか心配です。主催者は心配ばかり、一度のんびり参加してみたいなあ。



■招待講演会「となりの国でコツコツとホネ集め」朝鮮半島から見えるクール・ケモノ・ジャパンの巻」

日時：10月12日(日) 13時半～15時

会場：自然史博物館本館 講堂

参加費：無料

講師：木村順平氏

(ソウル国立大学獣医学部)

要旨：韓国での自然史研究は残念ながら、まだ、揺籃（ゆりかご）期にあり、動物の死体は見向きもされず捨てられる運命にありま

す。ご存知のように、ホネの標本を作成するには誰もが嫌う汚くて、臭い作業から逃げられません。ホネ作りは地味で人気の無い作業です。でも、韓国では稀有な、ホネ集めなんてちよつと「オタク」っぽい事に興味のある学生さんに運命的に出会い、数年来、韓

国のケモノの死体を集めています。毎週末、二人には至極の楽しみのホネ洗いのお陰で、タヌキ、カワウソ、キバノロなど韓国最大のホネのコレクションが出来ました。この宝も

の7年間の成果を、この10月から行なわれるソウル大学附属博物館での特別展『骨からみる韓国の野生動物（予定）』で披露します。地味なホネ集めから韓国初の本格的な動物解剖学の企画展開催にいたるまでの裏話をご紹介します。

■ホネホネ講演会「毛皮のなめしと剥製作りと修復と」

日時：10月13日（月祝） 15時～16時

会場：自然史博物館本館 講堂

参加費：無料

講師：相川 稔氏（標本作製士）

要旨：博物館標本として毛皮をどう保存するのか。剥製標本はどうやって作られているのか。また、歴史的にどう作られてきたのか。さらにそんな古い剥製はどう修復されるのか。

か。よく質問される標本づくりに関したテーマを、試しにちよつとやってみたくなるように、方法を具体的に紹介します。

■ゲッチョ先生のホネの絵描き講座

たくさんの著書でお馴染みのゲッチョによる絵描き講座。実物のタヌキ頭骨を前に、ゲッチョ流のホネの描き方を伝授してもらえます。

日時：10月12日（日） 10時半～11時半

10月13日（月祝） 10時半～11時半

集合場所：自然史博物館本館1階

ナウマンホール

材料費百円

講師：盛口満氏（沖繩大学）

定員：各回30名

■ホネホネ☆発表会

出展者が、ホネ標本作りや皮むきの技や道具などのノウハウ、ホネを使った教育プログラムや活動展開を紹介します。

日時：10月13日（月祝） 13時～14時半

会場：自然史博物館本館 講堂

参加費：無料

発表者：魁!!骨塾、なにわホネホネ団他

事務局長和田

ほね本紹介

その1

「ホネホネ博物館 (このは No.8)」

著者 このは編集部
出版社 文一総合出版 (2014/6/10)
ISBN 978-4829973875

来年のことを言うと鬼が笑うと云う。ホネ通22号の印刷もまだなのに「23号のホネ本紹介書きませんか？」とサタン…もとい佐竹編集長は笑顔で宣った。読書感想文は苦手だ。丁重にお断りしたが、推薦図書は気になる。ミュージアムショップに買いに行き、ついでにカジガエルの表紙に惹かれてバックナンバーまで購入してしまった。この時点で既にサタンの術中にはまっていたのかもしれない。



ホネホネ博物館

ホネホネ団員、骨の魅力を語る。骨の正体。形と機能しを伝えるデザイン。骨の彫刻家。骨の上で生きる骨。水の匂いを汲ぐ骨。空を飛ぶ骨。眠る骨。土を掘る骨。通って移動する骨。骨髄での生活を営む骨。伝説になった骨。

骨髄を採った骨の器。骨の鑑定書。骨らしの骨の骨。骨の標本作りに挑戦。

「ウナギを求めて世界中を駆け回る!」
腸胃学骨髄学研究会 貴山 貴人!

鳥かぎんたす 鳥かぎんたす
浮遊する小さな生きもの

文一総合出版

まずは竜骨突起の上にメスを入れ、そこから肉と皮の間に指を入れて…ん？そういえばリュウコツトツキって何だ？…お粗末なホネ知識しか持ち合わせていない私でも（上手い下手は別にして）鳥は剥けてしまう。ホネ団の活動の中でそれなりにホネをいろいろ見ているが知識として自分の中に蓄積してはいない。目の前の作業に必死、和氣譚々（殺伐？）とした会話に夢中でひとつひとつホネを確認したり記録したりすることは全くやっていない。こうして目の前をホネたちが流れ去っていく…このままではいかん…とは思いますが…そんなジレンマを埋めてくれる内容だった。

冒頭は団長のホネホネ団活動の紹介でツカミもぼつちり。最後も団長の骨格標本の作り方でシメもぼつちり。ホネの形態と体のつくり・動き方も詳しく解説されているので「？」と思ったときに紐解きたい。実際、ミズナギドリや膝に変な出っ張りがあるなとか、カメの甲羅の中は…とか、今まで活動日に見ていたホネたちが「！」となった。まさにホネに肉付けしてくれる本だ。活動日に出会ったホネたちを本の中で探してみよう、また、本の中のホネも活動日に探してみようと思っている。実物を手に取り、確認できるのはホネホネ団員の大きな強み。目の前の作業や会話を楽しみつつ復習もできるので次の活動日がますます待ち遠しくなった。

日本画&漆 山田明子

ほね本紹介

その2

「哺乳類のかたち～種を識別する掟と鍵～」

著者 川口敏

出版社 一総合出版 (2014/4/19)

ISBN 978-4829971000

目の前に一匹のもつさりとした獣がいると
する。さて、こいつはタヌキかアナグマかア
ライグマか？と聞かれて、自信を持って答
えられる人はホネホネ団にも多くはないだろ
う。困った時は図鑑を見ればよい。だが、違
いをざっくり見分けるための図鑑が意外にな
い。いや、なかった。



「哺乳類のかたち」は、日本の野山でよく
見られる哺乳類を識別するのに必要な特徴
を、生態に絡めて、幅広くかつ丁寧に語って
いる。描かれる特徴は外見上の違いに限らな
い。ページをめくって、生命感が滴るような

美しいイラストを眺めてみよう。背中を丸め
たもつふもふのネズミのあとに、いきなりイ
ノシシの頭骨が並ぶ。それから一部の内臓。
たくさんの歯。足の裏。グラフ。普通の図鑑
ではお目にかかれない絵が平然と並んでい
る。同じ動物を様々な角度から眺めたイラスト
が、外身も中身も分け隔てなく並べられた
様子から、死んでもからも尽きぬ、動物への愛
情と興味を感じる。本文を読んでみると、意
外に知らないことがたくさんある。どうい
う点でネズミの歯はタヌキの歯と全然違うの
か、哺乳類を同定するための一番確実な手が
かりは何か、コウモリの顔立ちがけっこう違



文一総合出版

山田明子画

広告

— 好評発売中! —
『猫にもできる豚足くん』

乾公正 著
2008年刊 12ページ
簡易製本 価格300円



かっこいい!

うとか。
中でも私が一番気に入っているのは、足の裏のイラストだ。冒頭のタヌキ、アナグマ、アライグマでも、顔は似ていても足はずいぶん違う。むちむちとお肉の目立つアナグマとアライグマ、肉球がはっきりとしたタヌキ。キツネはモフモフした毛皮にちんまりと肉球が埋もれている。そういえば、地中で暮らすモグラの手はむちむちだし、素早く走るノウサギの後肢はひたすら毛に覆われて、肉球なんて影も形もない。他にも指の長さ、爪の形など色んな特徴があって、何のためだろう、どんな環境で暮らしているんだろうと考えると、楽しい疑問がどんどんわいてくる。足の裏だけで20種類近く出てくるので、足の裏の



イラストを集めて動物当てクイズをやってみたら楽しいそうだ。



また、要所所で研究の話にも触れているのが嬉しい。フィールドの生物学シリーズのような、研究者の物語を読むときにも、こういった基礎知識があると心強いだろう。観察ポイントと基礎的な考え方を身につけるのに、とても使いやすい本だ。そしてカラーページとイラストの贅沢なこと! これで2400円はお買い得すぎる。さあ迷わず書店へ走るべし。「哺乳類のかたち」がどんどん売れて、川口さんがBIRDERに連載している「鳥の形態学ノート」が書籍化されることを願ってやまない。

岩佐ノ

ホネホネ団 ホームページアドレス

<http://www.geocities.jp/naniwahone/index.html>

主なコンテンツ

- ホネホネ団とは
- 入団・見学について
- ホネホネ団通信バックナンバー
- 死体に出会ったら
- 団員の個人ページ紹介
- 関連グッズ紹介
- 東北遠征団



新入団員紹介

2014年5月～2014年8月に入団試験に合格した方々です。

●団員 No.281 森 香織さん

●団員 No.283 村上 瑛さん

●団員 No.285 高松真也さん

●団員 No.282 岡 法子さん

●団員 No.284 杉本佐和子さん

●団員 No.286 高木綾湖さん

お名前: 高松 真也

近畿大学農学部に通っていて
昆虫と爬虫類が好きです。
骨格にも興味があり、入団させて
いただきました。
よろしくお願ひいたします。

お名前: 杉本 佐和子

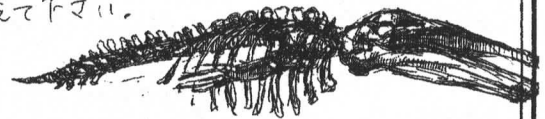
美術解剖学の授業からホネホネ団を知り
入団させていただきました。
合格できてうれしいです。骨格や筋肉の仕方など
実際に見てふれられてうれしいです。
今後よろしくお願ひします。

お名前: 岡 法子

骨虫、種石、貝など標本収集が趣味です。
動物、爬虫類も大好きです。
たくさん知らないことを勉強したいです。
よろしくおねがひします。

お名前: 村上 瑛

標本を作ったり、ミイラを作るのが好きです。
京都で日本画を学ぶ大学生です。
あつあつな生物や山が大好きです。
教えてください。



博物館の楽しみはホネだけじゃない!!

友の会に入ろう

会員限定の行事も
たくさん!!
入って損なし!

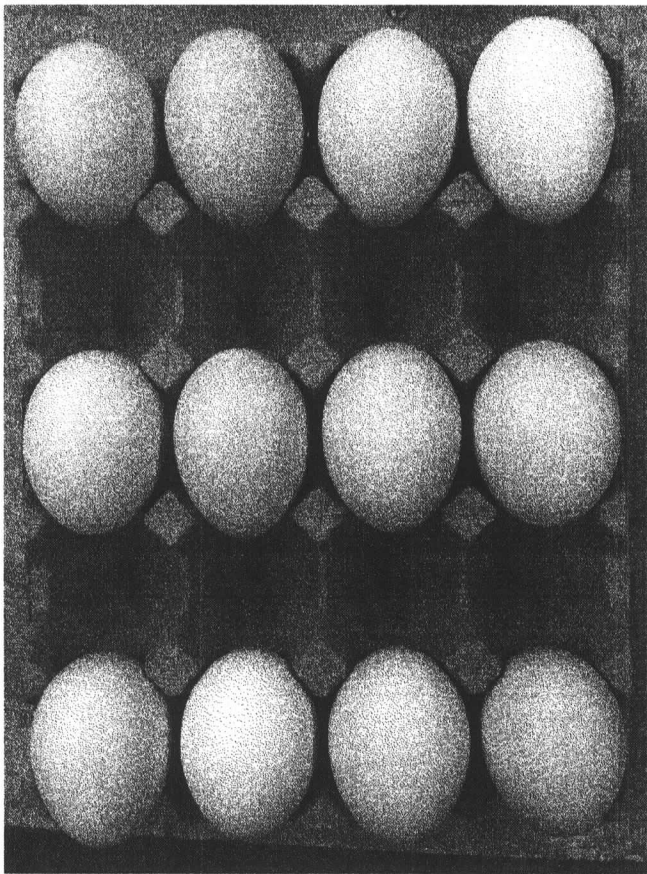
1年間3000円で
家族全員
楽しめます!!



お名前: 高木 綾湖

工学部 応用化学科 3年生です。
天文部に所属しており、星景写真を撮っています。
入団試験では、もっと早く時間がかかってしま
いました。合格出来てよかったです!
これから宜しくおねがひします(・ω・)♪

最近知ってる
ことはクマゴウ
の味です。
(食べたい...)



上：卵の外側の写真

私物 標本

ホネホネ団には私物の標本を所有している方が多数いると思われます。拾ったホネや、組み立てたりもらったホネ、ホネにする予定の死体など。さまざまな私物標本も紹介していきたいと思います。

たまごコレクション

たまごの表示の紙と殻を集めています。2013年7月〜集め始めて、今では約

130種200個くらいのたまごが集まりました！わーい



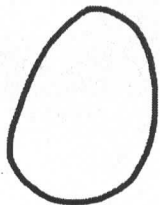
産直や道の駅で売ってる地卵、スーパーで売っているような卵も集めてます。必要な情報は、養鶏場、買った場所と日付、値段です。中身を抜いた卵殻とパッケージも可愛いものを保存してます。



かわいいたまごが部屋と冷蔵庫を埋め尽くしていて、これから保存場所をどうするか悩んでいます。

浜口とりノ

保存してるもの



卵殻

中身を抜いて殻だけを集める



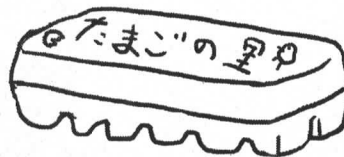
表示の紙

パックに入っている(貼ってある)卵の情報が書いている紙



レシート

卵買ったときのレシート



卵パック

可愛いパックだけ集める



シール

賞味期限のシールやたまごパックに貼ってあるもの。



写真

卵割ったときや、パッケージされてる時の写真



2014年5月24日

場所：大阪市立自然史博物館 実習室

時間：10時～20時

担当：副団長、事務局長

参加者数：23名（見学者5名 新人団1名）

内容：ベネットアカクビワラビ1体、ヒツジ1体、モルモット4体、ヌートリア1体、カイウサギ1体、ツキノワグマ1体、スナドリネコ1体、アライグマ1体、ハクビシン1体、テン2体の皮剥ぎ。軽くモルモットの目。



2014年5月25日

場所：大阪市立自然史博物館 実習室

時間：10時～21時

担当：副団長、事務局長

参加者数：14名（見学者1名 新人団なし）

内容：シロエリオオハム1体、ヤマシギ1体、ウミネコ1体、オオセグロカモメ1体、キンバト4体、キジバト1体、サシバ1体、ハシボソガラス2体、シロハラ2体の皮剥ぎ。鳥の目。



2014年6月28日

場所：大阪市立自然史博物館 実習室

時間：10時～20時20分

担当：団長、副団長、事務局長

参加者数：32名（見学者17名 新人団2名）
内容：コヨーテ1体、エゾクロテン1体、テン1体、チョウセンイタチ1体、アライグマ1体、タヌキ2体の皮剥ぎ。ケヅメリクガメの解体。腐ったスナメリ処理。骨力リカリ。個人的にはコヨーテ、でも全体的にはリクガメの目。



2014年6月29日

場所：大阪市立自然史博物館 実習室

時間：10時～19時

担当：団長、事務局長

参加者数：13名（見学者2名 新人団なし）
内容：ヤマセミ1体、ハシブトガラス1体、ヒヨドリ3体、ムクドリ1体、スズメ1体の皮剥ぎ。スズガモ1体の処理。鳥の目。裏番組で東北雑技団の活動。



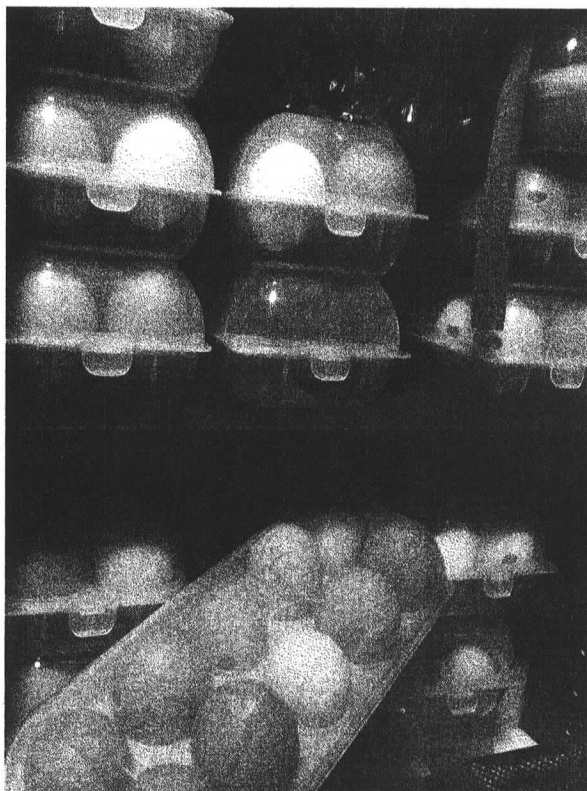
2014年7月28日

場所：大阪市立自然史博物館 実習室

時間：10時～19時15分

担当：団長、副団長、事務局長

参加者数：45名（見学者27名 新人団2名）
内容：アライグマ4体、ネコ1体、テン1体、タヌキ2体、ヌートリア1体、タイワンリス1体、モモンガ1体、フクロモモンガ1体の皮剥ぎ。ケヅメリクガメの肉取り。スナメリ頭処理。骨力リカリ。倉敷から研修5名。



上：「卵殻は100均の卵ケースに入れて保存してます。そろそろ場所がなくなってきました…

中学生生物部の見学生徒14+教師4人。内生徒6人はすぐリタイア。最後まで熱中していたのは3人。今度は3人で来て欲しい。



2014年7月29日

場所：大阪市立自然史博物館 実習室

時間：10時～19時45分

担当：団長、事務局長

参加者数：13名（見学者2名 新人団なし）
内容：キジ1体、オシドリ1体、アオバト1体、ハシボソミズナギドリ8体、ダイサギ1体、ハダダトキ1体、カワセミ1体、ミサゴ1体、ハシボソガラス2体、トラツグミ1体、スズメ1体の皮剥ぎ。ウミアイサ1体の処理。鳥の目。引き続き、倉敷から研修5名。



2014年8月17日

場所：大阪市立自然史博物館 実習室

時間：10時～19時

担当：団長、副団長、事務局長

参加者数：29名（見学者11名 新人団1名）
内容：アライグマ1体、アナグマ1体、タヌキ1体、モルモット1体、ノウサギ1体、カイウサギ3体の皮剥ぎ。フタコブラクダのホネ洗い。砂場からラクダのホネを発掘して洗った。



2014年8月18日

場所：大阪市立自然史博物館 実習室

時間：10時～18時30分

担当：事務局長

参加者数：14名（見学者3名 新人団なし）
内容：マガモ1体、オオハム1体、ドバト2体、ハシボソミズナギドリ3体、トビ1体、ハイタカ1体、ハシブトガラス2体、ムクドリ1体の皮剥ぎ。鳥の目。

広告

— 好評発売中! —

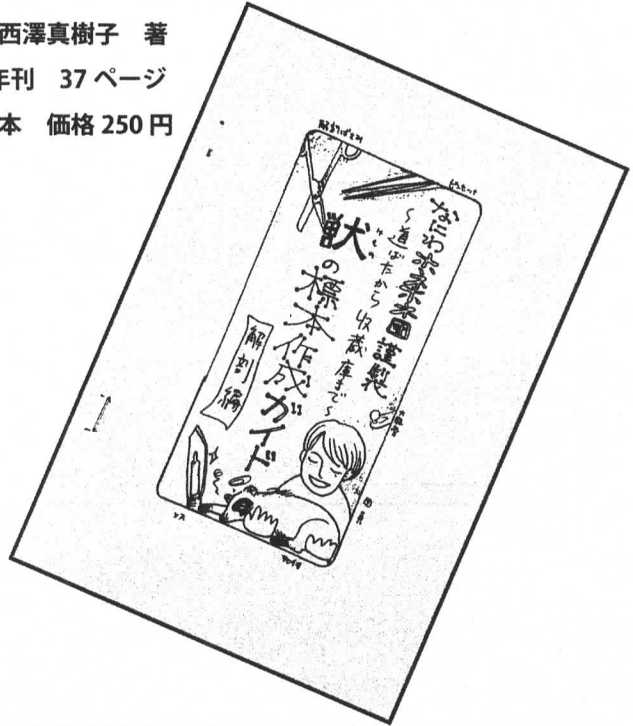
『獣の標本作成ガイド 解剖編』

～道ばたから収蔵庫まで～

団長 西澤真樹子 著

2005年刊 37ページ

簡易製本 価格 250円

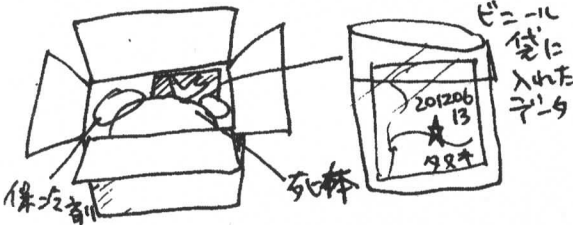


なにわホネホネ団からのお願い

死体は重要な標本です。ぜひ回収して博物館まで届けてください。届けるときにはビニール袋で3重ぐらいに包んでください。直接持ち込むほか、冷凍の宅配便も利用できます。着払いでも結構です。その際、内容は「標本」「サンプル」とお書き下さい。
送ったり、持ち込んだりするときには、ホネホネ団まで連絡をください。標本の採集日、採集場所（地図のコピーに印でOK）および採集者の名前を書いたメモを同封することを忘れなく！

お問い合わせ先

大阪市立自然史博物館
<http://www.mus-nh.city.osaka.jp>
動物研究室 和田学芸員
wadat@mus-nh.city.osaka.jp



編集後記

記事募集

夏休み...というにはちょっと早めの7月の中旬に石垣島へ行ってきました。南の島は良いですね。短い旅でしたが、夜の亜熱帯林をうろついたり、干潟を歩き回ったり、溪流でエビを掬ったり、サンゴ礁でシュノーケリングしたり、水牛車に乗ったりしました。もちろんマンゴーとマグロも大量に食べましたよ。芯まで食べられるピーチパインも素晴らしい味でした。

あまりに日程を詰め込みすぎて、上陸したてのサキシマヌマガエルしか採集できませんでした。捕まえた時には体長1センチを少し超えるくらいでしたが、帰宅した初日から人工餌に食いついて、いまや4センチにまで成長しました。

本州のヌマガエルと比べて体型はやや平べったく、後足は長めです。体に比べて頭も小さめの気がします。ジャンプ力はヌマガエルに毛が生えた程度ですが、横や後ろに素早く小さく跳ぶのが変わっています。近頃は下手くそながらも時々鳴いています。一年目でもう鳴き始めるんですね。他の種類のカエルはどうなのでしょう？ 鳴き声は本州のヌマガエルと大差ないように思います。アマガエルやシユレーゲルアオガエルと違って、ヌマガエルの鳴き声は小さくて近所迷惑にならないから良いですね。

ホネホネ団通信では、常に原稿を募集しています。原稿用紙半分程度の短いものから超大作まで幅広く受け付けています。手書きでもパソコンでもOK、イラストや写真もありです。投稿方法は電子メール、博物館へ郵送したり持っていく、活動日に手渡しなどです。送料や交通費は自己負担でお願いします。内容はホネに関すること全般ですが、例えば...

活動報告・活動日にこんな作業をした、ホネホネ団の活動でどこかに行った、ホネを見に行った、死体やホネを拾った、入団試験を受けたなど、何かしたら記事を書いてください。私物標本・個人で色々拾ったり組み立てたりしている方も多いと思います。拾ったホネ、組み立てたホネ、組立中のホネ、ホネにする予定の死体など、何か持っていたら写真とエピソードを寄せてください。

本紹介・ホネに関する本を紹介してください。読書感想文の宿題が出たら、ホネに関する本にして、ホネホネ団通信にも送ろう！

他にも編集から色々記事を依頼しますので皆様よろしくお願いたします。

作成の手間を省くために原稿の校正を編集が勝手にしています。大幅変更は投稿者に確認しますが、内容が変わらない程度であれば通知しないことがあります。

ホネホネ団通信編集 佐竹敦司
gcd03100@nifty.ne.jp